

2019年度 子どもたちの“こころを育む活動”優秀賞



特定非営利活動法人

チャイルドケアセンター 福岡県

中学校子育てサロン～異世代間交流～

活動の概要

大野城市、春日市の6つの中学校において、3年生の家庭科の授業として、乳幼児親子とのふれあい体験をクラスごとに行っています。きっかけは2005年、当法人の代表が、自分の子どものPTA活動に参加する中で、「多感な時期の中学生が小さな子どもとふれあい、自分もたくさん愛情を注がれて育ったのだと実感できる場を作りたい」と思ったことでした。子育てサロンでは、1クラスを6班に分け、各班に進行役として子育て中の「ママ先生」、お手伝いとして地域ボランティアの「実行委員」が入り、きめ細かに交流をサポートする点が特徴です。その結果、地域の“異世代間交流”の場ともなっています。



中学生は子どもと遊びながら、その保護者から育児の大変さや喜びを聞きます。自分の育ちを振り返る場でもあります。



受験を控えた中学3年生。思春期特有の張りつめた気持ちを柔らかくほぐす、心温まる時間です。

活動の特徴

進行役は「ママ先生」 地域の実行委員がサポート

子育て中でサロン参加経験がある「ママ先生」が進行役、地域の実行委員が見守り役として各班に入り、乳幼児の保護者のさまざまな相談にも乗ります。



中学校との綿密な打ち合わせで 子育てサロンの中身を充実

事前に学校を訪問し、学校長や家庭教諭と実施に向けて打ち合わせます。生徒は夏休みの課題として子どもと遊ぶためのおもちゃや絵本を手作ります。



成長を喜び合う関係が生まれる 異世代間交流の場

中学生、乳幼児、保護者、地域住民をつなぐ“異世代間交流”の場ともなっており、校外でも挨拶するなど、互いの成長を喜び合う関係が生まれています。



参加者の声

私も親に愛情いっぱい育てられたのかなと思って、家に帰って「ありがとう」と伝えたら、喜んでくれてうれしかったです。(中3女子)

子育てサロンで顔見知りになった中学生とスーパーなどで会えば声を掛け合うようになりました。(乳幼児保護者)

子育てサロンでの経験を通して、中学生の顔が変わっていくのがうれしいです。(実行委員)

虐待や少子化などのネガティブな情報が多い中、中学生に「本当の子育てはこうだよ」と伝えたくて、ママ先生になりました。(ママ先生)